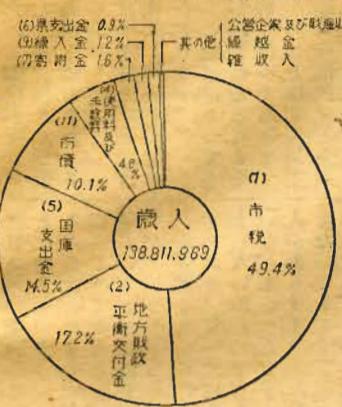
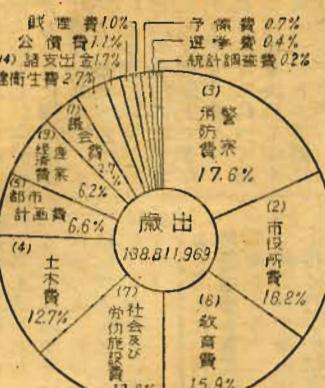


昭和二十八年度豫算成立

一般會計 二三六・八二一・九六九圓  
特別會計 (公益質屋) 九・五七〇・〇〇三圓

昭和廿八年度 諸會計簿算案は三月十日の市議會に上提された。冒頭吉田市長病氣のため重助役代行の豫算説明（別項の通り）があつた後審議に入つた。十三日豫算説明十七日總括問題十八日委員會付託となり審議されることとなつた。かくて豫算特別委員會において審議の末二十五日午後二時本會議を開き委員長から慎重審議の結果豫算案の一部に要望意見を付して原案に賛成した旨報告され採決の結果一部を修正して可決されと共に昭和二十八年度豫算の成立をみるに至つた。



(豫算説明) 本日昭和二十八年度一般會計及び特別會計豫算案を上掲いたしまして御審議を願う運びとなりましたが、はからずも市長病氣のため私から豫算編成の概要を申述べたいと存じます。

以上の基本方針によつて昭和二十八年度豫算を編成いたしたのであります。本年度豫算で重点としたものは、土木・教育民生・産業経済の面であります。これら事業の振興は市勢發展の原動力であり積極的施設としてもつとも意を注がなければならぬものでありますからでき

失業対策費に一七九万円を計上しました。市内失業登録者は約八〇名であります。が潜在失業者が相当數に上るので、のとみられますので、戸倉・裏宿・堂の下・沼真倉線を改修することにして民生の安定をはかりたいと考えたのであります。

公営住宅費に五〇一万円を計上しました。昨年第二種住宅七棟を北

都市計画費は土木費から分離して新に一款を起し總額九一三万圓を計上しました。うち要幹線街路事業費四〇万圓を計上し前年に引きつゞき那古大和屋旅館角対實施する豫定であります。

歲 入		歲 出			
款	科 目	金 額	款	科 目	金 額
1	市 稅	68,503,906円	1	議 会 費	4,354,927円
2	地方財政平衡交付金	23,930,000	2	市 役 所 費	22,337,607
3	公營企業及び財産收入	167,863	3	警 察 消 防 費	24,453,794
4	使用料及び手數料	6,644,050	4	土 木 費	17,691,375
5	國 庫 支 出 金	20,110,173	5	都 市 計 画 費	9,133,000
6	縣 支 出 金	1,240,415	6	教 育 費	22,005,043
7	寄 附 金	2,197,000	7	社會及び勞動施設費	19,245,114
8	鑑 入 金	1,700,000	8	保 健 衛 生 費	3,800,917
9	縁 越 金	.1	9	產 業 經 濟 費	8,564,434
10	雜 收 入	213,561	10	財 產 費	1,405,455
11	市 債	14,100,000	11	統 計 調 査 費	266,304
			12	選 舉 費	621,717
			13	公 債 費	1,466,026
			14	諸 支 出 金	2,340,856
			15	豫 備 費	1,125,400
歲 入 合 計		138,811,969	歲 出 合 計		138,811,969

國民健康保険は民生安定のため最も重要な施策であります。が本年國民健康保険組合は運營上危機に直面してより一〇〇万圓を補助してこの立直しをするものであります。

保健衛生費のうち結核病  
豫防費へレンタルゲン埠  
影委託費二五万圓を納  
みました。結核對策機  
立のためには次くこと  
のできないものと思ひ  
ます。火葬場は今迄迄  
による火葬爐ただでそ  
りましたか本年度九月  
圓をもつて重油火葬爐  
の修理をして利用者の  
時間的節約と経費の節  
減を計りたいと思ひま  
す。

して難易手の海でした。  
状況にあります。軍人・  
遺族・留守家族に對  
しては、心から護憲問題  
しなければなりません。  
本年度もまた厚生援護費  
として五万圓を計上し  
して援護厚生に資すること  
とにいたしました。  
戦傷病者・戦殲者遺族  
等接護費として新たに十  
万五千圓を計上し傷病  
軍人補装具費その他に充  
てることにいたしま

書設としてかくことのできないものであります。本年縣図書館の分館となる可能性がありますので三〇万圓を計上して對應することにいたしました。

月別	稅目	期別	備考
市固市固市固市固市固市自轉車稅荷車稅	定定定定定定	民資民資民資民資民資	產產產產產產
稅稅稅稅稅稅	稅稅稅稅稅稅	稅稅稅稅稅稅	稅稅稅稅稅稅
5 4 4 3 3 2 2 1 1 全			
	2.1 3.期割 4.均等割 5.期所得割		

